

クラウドサービスと紙とを一体化した

テキスト作成の試み

森 夏節（酪農学園大学） 中野 淳 八木玲子（日経 BP 社）

鳥居隆司（相山女学園大学） 立田ルミ（独協大学） 大岩幸太郎（大分大学）

k-mori@rakuno.ac.jp

◎Key Words 情報教育、教科書、クラウド

はじめに

情報化の進展とともに情報教育の重要性は広く認知されている。しかしながら、あまりに社会の情報化や情報技術の進歩が速いために、情報教育に用いる従来型の紙による教科書やテキストは執筆から出版にいたる過程を経ている間や、出版から僅か 2、3 年で内容が陳腐化してしまったり、データが不正確になるなどの状況を招いている。

容易にデータ更新できる電子教科書であれば、これらの課題は解決できるが、まだ普及には至っていない。

文部科学省が平成 22 年 8 月に発表した「教育の情報化ビジョン」¹⁾の中でデジタル教科書の開発促進を提言したところであるが、始まったばかりの教科書や教材の電子書籍化の普及には今しばらくの時間を要するであろう。

そこで、本研究では上述した問題点をクラウドサービスと紙の両方を用いるという新しい試みで改善し、大学等の情報教育に向けたテキストを作成した。

テキストの構成は「変わらない部分」は紙で、「日々変化する部分」は更新可能なデータからなるクラウドサービスを用いることを基本とした。紙からクラウドサービスへ、クラウドサービスから紙へと自由に行き来しながら学習を進めることができる新しいテキストの形を提案する。

1. テキスト設計のコンセプト

テキストは大学の初学者向けの情報教育の授業で使うことを想定し、15 回の授業で大学生に必要な情報リテラシーが習得できることを目的とした。

大学生が学ばなければならない情報リテラシーは、レポート作成や研究のために必要なビジネスソフトの使い方、情報収集、情報発信に必要な技術や法律知識など多岐にわたり、その内容も変化していく。そこで、それぞれの項目において基礎基本となる変わらない部分と、IT の進歩や時代とともに変わる部分とに分けることにした。変わらない部分は紙のテキストで構成し、変化する部分はクラウドサービスを使用することで、紙とクラウド空間を縦横に利用できるテキストとした。

また、学生間の情報リテラシー能力に見られる差に配慮し、補習できるプログラムを用意した。

2. テキストの構成

以下のように 15 章で構成した。

- 第 1 章 情報の検索と活用
- 第 2 章 文書作成の基本
- 第 3-5 章 レポートの作成①、②、③
- 第 6-9 章 表計算①、②、③、④
- 第 10-11 章 プレゼンテーション①、②
- 第 12 章 情報セキュリティ
- 第 13 章 インターネットのしくみ
- 第 14 章 情報発信の方法とモラル
- 第 15 章 情報を集め、まとめる

1) 紙テキスト

例えば、第 1 章の情報の検索と活用では、情報検索の種類、キーワード検索のしくみ、著作権の重要性と著作物の正しい活用について取り上げている。

また、文書作成の基本を学ぶ第 2 章では、タイピングの基本、ビジネス文書の基本書式、ワープロソフト

を用いた文書作成の基本的な確認事項を取り上げている。特にワープロソフトに関しては、用紙の設定、ビジネス文書の要素の配置、季節に合った挨拶文、印刷前のレイアウト確認、ファイル保存などを扱っているが、ワープロソフトの具体的な操作説明は最小限に留めている。いずれもそれぞれのテーマの基本となる内容で、日々更新される事柄を扱ってはいない。

2) クラウドサービス

クラウドサービスには、紙テキストと同じ目次を配置し各章への入口とした (図 1)。

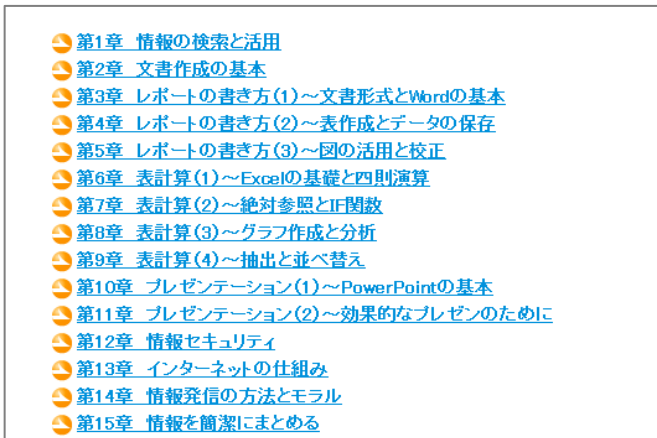


図1 クラウドサービスの目次ページ

第1章では、精度の高いインターネット検索の方法として、検索オプションについてソフトを用いて具体的に図解している (図 2)。

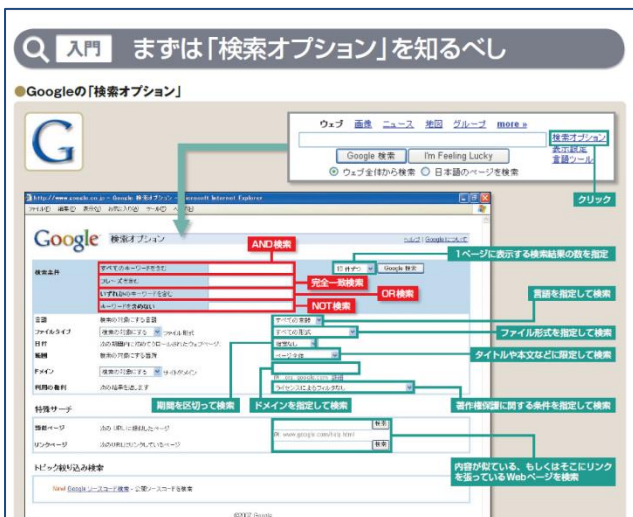


図2 精度の高い検索方法の図解

また、第2章で取り上げたタッチタイピングについては、具体的な指使いや練習用のフリーソフト (図 3) を紹介している。

いずれも最新の情報によって変化するテーマである。



図3 人気のあるフリーソフトの紹介

さらに、それぞれの章ごとに課題ファイルをクラウド内に配置し、「課題ファイルのレポートを基に、目次を作成しなさい」、「アルゴリズムに関する IT パスポート試験の例題に挑戦しなさい」、「クラウドサービス内で2ページの記事を検索し、両面印刷しなさい」など、紙テキストでは出せない課題を設計することができた。

また、ビジネスソフトを基礎から学べる講座を配置し、補習できるようにしている。

まとめ

以上のように、基礎基本となる説明は紙テキストで、日々変化する最新情報に加え、誌面には載せることができない大量の情報はクラウドでという新しい形のテキストを作成することができた。

クラウドサービス利用の低廉化が今後の課題となる。これが進めばさらに利用が広がると考える。

参考・引用文献

- 1) 文部科学省 教育の情報化ビジョン (骨子)
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/04/1305484.htm (文部科学省 2013年6月10日 HP)
- 2) 森 夏節、鳥居隆司、立田ルミ、大岩幸太郎、日経パソコン編集 著『基礎からわかる情報リテラシー』日経 BP 社 2013年

注

本稿の著者らが執筆した参考文献 2) のうち、クラウドサービス部分は、日経パソコンの教育機関向けクラウドサービス「日経パソコン Edu」内に、テキストに沿って再構成されたものを用いた。